

佐賀県におけるチャトゲコナジラミとシルベストリコバチの発生分布と消長					
[要約]					
<p><u>チャトゲコナジラミ</u>は、本県の主要茶園地帯のほぼ全域に生息域を拡大し、<u>天敵昆虫</u>の<u>シルベストリコバチ</u>も分布を拡大している。チャトゲコナジラミ<u>成虫</u>の県内での発生は年に3~4回で、<u>標高</u>により発生時期に差がある。</p>					
佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当		連絡先	TEL:0954-42-0066 E-mail:chagyoushiken@pref.saga.lg.jp		
部会名	茶業専門部会	専門	栽培	対象	茶

[背景・ねらい]

本県では平成26年3月に初めてチャトゲコナジラミの発生が確認され、その後生息域を拡大している。一方で、チャトゲコナジラミの天敵としてシルベストリコバチが知られており、その温存が重要な防除対策になるとが明らかとなっている。そこで、県内の主要な茶生産地域におけるチャトゲコナジラミと天敵昆虫のシルベストリコバチの分布状況と発生消長を明らかにし、防除対策の参考とする。

[成果の内容]

1. 佐賀県における平成29年12月時点でのチャトゲコナジラミ発生確認地域は、基山町、吉野ヶ里町、唐津市、伊万里市、有田町、武雄市、嬉野市、太良町で主要茶園のほぼ全域に生息している(図1)。
2. 佐賀県における平成29年12月時点でのシルベストリコバチ分布確認地域は、吉野ヶ里町、伊万里市、有田町、武雄市、嬉野市である(図1)。
3. チャトゲコナジラミ成虫の発生は、標高90mで年4回、標高370~380mで年3回であり、標高により発生時期に差がある(図2)。
4. シルベストリコバチは春季から秋期にかけ不規則に誘殺され、チャトゲコナジラミ成虫発生ピークの直後に誘殺数が増加する(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 県内のチャトゲコナジラミ防除に活用できる。
2. 成虫期防除は効果が劣るため、若齢幼虫期(発生した成虫が見えなくなった頃)に薬剤による防除を行う。
3. チャトゲコナジラミが多発した茶園では、葉裏に薬剤が付着しやすいように、裾刈りや枝条更新を行った後防除を行う。
4. 天敵昆虫シルベストリコバチが確認できている地域では、有機リン系、カーバメート系、ピレスロイド系、ピロール系、ネオニコチノイド系などの、シルベストリコバチに影響のある農薬の使用を極力控え、天敵の温存を図る。

[具体的なデータ]

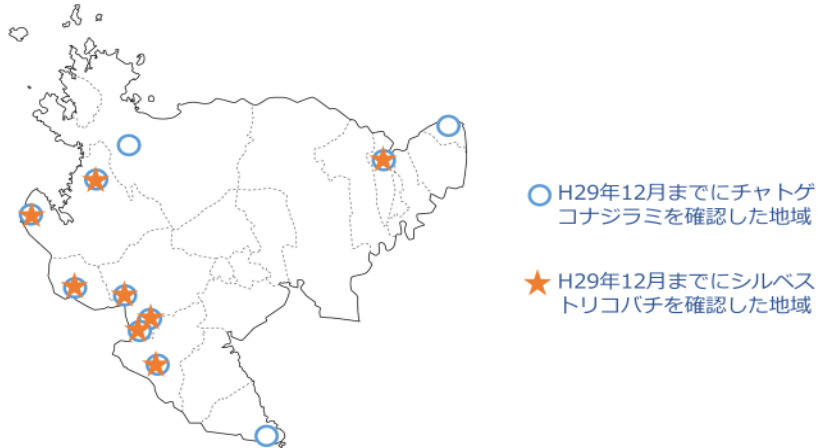


図1 佐賀県におけるチャトゲコナジラミとシルベストリコバチの生息確認地域

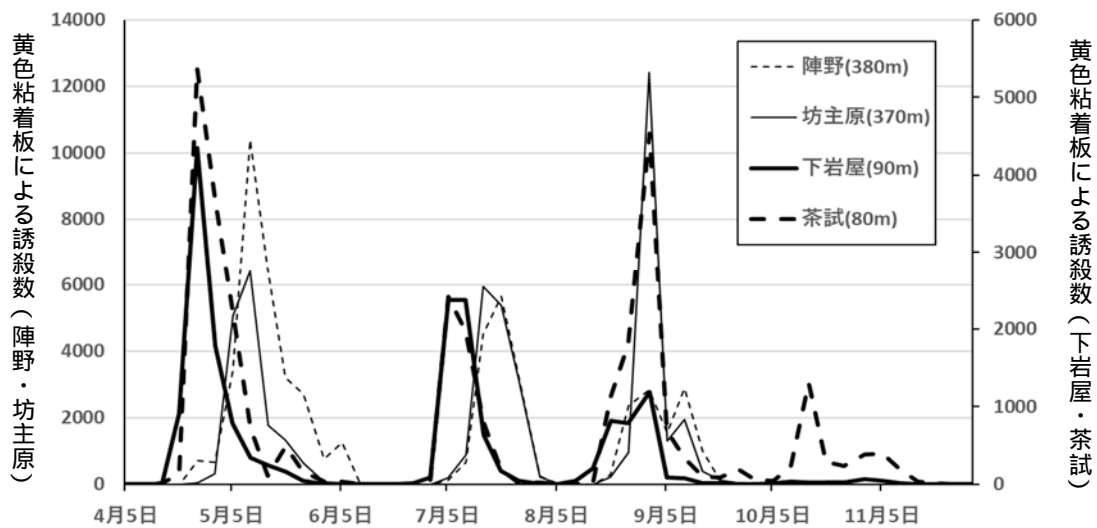


図2 チャトゲコナジラミ成虫発生の標高による違い

注) 陣野、坊主原は H28・H29 年の平均、下岩屋は H27～H29 年の平均、茶試は H29 年の単年、凡例の () 内は標高を示す

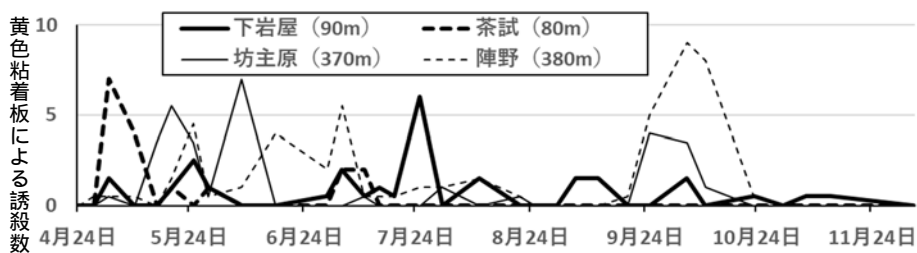


図3 シルベストリコバチ誘殺数の推移

[その他]

研究課題名：チャトゲコナジラミ等に対応した効率的な防除体系の確立

予算区分：県単

研究期間：2015～2017年

研究担当者：東島敏彦・野中一弥・高木智成・中村典義